

## 平成26年度町立辰野病院改革プラン点検報告について

町立辰野病院改革プランは、平成21年3月19日に策定し、公立病院としての役割をすすめながら、当初平成25年度黒字化を目指してまいりました。

平成22年2月に新病院建設が上伊那地域医療再生事業の認可を受け、平成22年度実施設計、23・24年度病院建設、24年度10月1日に新病院開院と、事業を進めてきました。

病院移転新築決定とともに、公立病院改革プランガイドライン（19.12.24 総務省自治財政局長通知）にそって町立辰野病院改革プランを、平成23年3月18日に第1次の全面改定を実施しました。減価償却の増などにより、移転後の黒字化の目標を平成30年度に変更しました。

医師につきましては、平成22年3月末整形外科の医師が退職し、常勤医師が6名になりましたが、平成24年1月整形外科1名が、25年1月からは、総合診療担当1名が常勤採用となり8名体制となりました。平成26年3月末に整形外科医師1名が退職し常勤医師は7名となりました。経常収支は23、24年度と黒字決算となり、改革プランの目標を達成しましたが25年度は旧病院解体に伴う特別損失及び減価償却費の増により139,170,192円の赤字決算となりました。平成26年度も常勤医師の減、公営企業法の改正、旧病院の解体と起債の繰上償還に伴い460,471,213円の赤字決算となりました。なお自己資本金と相殺し欠損金は0円としました。

亜急性期病床は平成26年7月に地域包括ケア病床となり、病床数も24床から20床となりました。病床利用率は78.89%、在宅復帰率は85.74%でした。リハビリを中心とした回復機能強化については、リハビリのスタッフも増員し、日曜日を除く毎日患者へのリハビリを実施し、機能強化に努めています。さらに、退院後のリハビリについても、訪問看護と連携し、訪問リハビリの充実を図っていきます。

公立病院改革ガイドラインでは、経営の効率化に係る部分については3年程度とされていることから、経営安定に向けて医師確保と病床利用率の増加に最大の努力を致してまいります。

平成27年9月17日

町立辰野病院